

豊栄区公民館運営審議会 会議概要

令和5年度 第1回豊栄地区公民館運営審議会			
開催日時	令和5年8月4日（金曜） 午後1時30分～午後3時45分		
会場	豊栄地区公民館 3階 大講堂		
出席者	委員	<p style="text-align: right;">* 敬称略</p> 石黒委員、梅津委員、大原委員、神田委員、倉島委員、 栗原委員、玉井委員、土田委員、渡辺委員 <p style="text-align: right;">計9人</p> （欠席：マルシェフ委員）	
	事務局	豊栄地区公民館	尾崎主任、佐藤主査、小池主査
		北地区公民館	岩本館長、天尾主査
内容	<p>1 開会</p> <p>2 館長あいさつ 岩本館長</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 議長・副議長の選出</p> <p>◎事務局から、議長・副議長選出の規定について説明を行いました。栗原委員から、事務局一任の声があり、事務局から議長に土田委員、副議長に倉島委員を提案しました。</p> <p>【質疑・意見等】 異議なしで了承</p> <p>5 議題</p> <p>(1) 「令和2年度～6年度 新潟市公民館事業の基本方針」 資料「新潟市公民館事業の基本方針」に基づき、事務局から説明を行いました。 →質問や意見等はありませんでした。</p> <p>(2) 「令和4年度事業報告・事業評価について」 ア 「豊栄地区公民館事業報告・事業評価」 令和5年度豊栄地区公民館運営審議会資料に基づき、豊栄地区公民館分について事務局から報告を行いました。</p> <p>【質疑・意見等】 (土田議長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな項目で活動しており、市民として感謝している。乳児期家庭教育学級「ゆりかご」について、1期で終わることなく、2期のメンバーと交流し、その後つなげていることがとてもよい。 母親にとって日々生活が続く中で、つながっている人がいることは、心強いと 		

内 容

思う。毎日悩む中で、先輩の声などを聴くと不安が和らぎ、子どもにも優しい気持ちが生えると思う。

また、そこから一歩開けて、地域の方に挨拶するなど社会につながる面があると思う。

- ・令和3年度は、乳児期家庭教育学級休日版「公民館でハッピー家族Day★」があった。交流者の間でこのような企画が出るとよいのかもしれないが、継続したワンステップアップの学びがあるとよい。

(尾崎主任)

今後、「ゆりかご学級」の内容について、父親の参加などについて検討を行っていく。

(梅津委員)

- ・コロナ禍において、意味ある事業を実施しており、評価する。
その中で、「地域絆事業」は、「災害に役立つテレビやスマートフォンの使い方」というテーマだったが、集まる人たちの年齢層や男女比率と夜に開催しなければならない理由は何か。

(小池主査)

年代はほぼ60才以上が多かったと思う。はっきりとはわからないが、男性の比率が多かったと記憶している。夜に開催した理由は、北区地域総務課と北区防災士の会と相談し、夜のほうが参加しやすいのではないかと、との検討があったと思うが、今後ニーズがあれば時間帯について検討したいと思う。

(梅津委員)

- ・乳幼児家庭教育学級で「はじめての子育て応援セミナー」と「ゆりかご学級」は、同じく第一子を持つ親を対象としている。確かに第一子は初めてであり、孤独を感じやすい時期と思うが、例えば「ゆりかご学級」を第一子の子育てに限らず、広く対象とすべきではないか。また、参加者数をもっと増やすべきではないか。

いじめ問題など、長きに渡り学校もがんばっている中で、しかし件数は減らない。突き詰めていくと、家庭での育ち方、家庭教育が大事なのではないかと。メディア生活が中心となり、家での生活体験がなくなっており、公民館において、家庭教育力の向上を支援できないものか。

(尾崎主任)

- ・「ゆりかご学級」は、保護者の講座中、乳児の保育支援を行うことも重要な取り組みとしているところ。その中で、部屋の収容定員から保育の受け入れも限りがあり、サービスについて施設の使用料などと併せて検討が必要である。
- ・成長過程における切れ目ない支援については、豊栄地区、北地区というだけでなく、北区全体として見て成長期に合わせた支援の役割分担の見直しなど、財源をどのように工夫していくか検討していきたい。

(玉井委員)

- ・チャレンジキッズなど、子ども対象の事業について、校区别の参加者の割合はわかるか。というのは交通の便の問題があり、仕事のある方は送迎できなくなると、子どもでは来れない。近くの子どもは来やすいが、遠くの子どもは来たくても来れない。

(小池主査)

内 容

チャレンジキッズについては、豊栄地区の小学校に配付している。
校区别の人数は、資料を持っていないが、児童数が多いところは、参加も多い傾向にある。

(玉井委員)

- ・「ゆりかご学級」の開催日について、夜は、子どもに食べさせ、お風呂を入れなければいけない。平日は、母親は育休中であれば来れるが、父親は来れない。そうすると土日の開催となるのでは。母親から父親を誘いやすい雰囲気を作ることもいいことと思う。

(尾崎主任)

いただいたご意見を参考に、どのように工夫していけるか検討していきたい。

(栗原委員)

- ・「ご近所だんぎ」について、約半分参加した。高齢者向けで、非常に有意義であると思った。フレイル予防に対しては、社会参加が一番なため、このような事業をぜひやっていただきたい。また、終わった後の「だんぎ」を実施することで、「地域のいろいろな方がこのように考えているのだな。」と、わかるだけでもよいと思う。

- ・「地域絆事業」は、慣れないスマートフォンの使い方について関心が高く、同じ年代の人と学びが共有できよかった。

(大原委員)

- ・北区には児童館が 6 つあるが、施設再編が言われている。恐らく公民館がやっている子ども対象の事業は、児童館と重なるところがあるのではないかと。岡方の子どもたちは、毎月児童館の予定表が配付されており、児童館のつながりが多い。

公民館のイベントでは、参加するとお客さんになると思われる。

各児童館の事業を念頭において、うまくすみ分けをするとよいのでは。

(尾崎主任)

- ・児童館とはあまり情報共有はしていない状況であるが、今年度豊栄大民謡ながしの件で、踊りの講習を公民館と共催で行う予定がある。今後参考にしていきたい。

(土田議長)

- ・運営審議会の事業評価のまとめについては、「「地域絆事業」について、夜間の開催のほかに日中開催の検討について」、「ゆりかご学級」の第一子の対象を広げる検討について（保育など複合的要素を含めた検討）」、「ゆりかご学級」について、母親の学びから父親参加促進への環境づくりの検討について」、「ご近所だんぎ」での社会参加の推進と、「だんぎ」の再開について」、「高齢者のスマートフォンの学びの充実について」、「児童館との情報共有や事業参考について」、を今後の検討事項として意見とする。

イ「北地区公民館事業報告・事業評価」

令和 5 年度豊栄地区公民館運営審議会資料に基づき、北地区公民館分について事務局から報告を行いました。

(土田議長)

- ・「初めてでも安心 無理なくできるヨガ」と「今すぐ知りたい 睡眠とお金のお

内 容

はなし」は単発事業とのことだが、今後も年代に合った単発事業を実施するというのか。

(岩本館長)

- ・ヨガについては、サークルの高齢化が進み、活動を止める場合があることから、公民館としてはサークル化を進めたいため、きっかけづくりの機会も含めて開催した。

取り組みとしては役目は果たしたととらえている。

お金のはなしについても同様で、今後の事業については未定であるがサークル化を視野に事業を計画していきたい。

(神田委員)

- ・事業報告の中で、合同作品展について記載があり、単発事業ととらえて D 評価としているが、今年度、文化祭として行われるということか。

(岩本館長)

- ・昨年度は、新型コロナウイルスの関係で文化祭は中止となった。しかし、どうしても作品を展示したいという4団体の希望で、代替えとして合同作品展を2日間実施した。この点で単年度事業とした。

今年度は、文化祭を開催することで決定したが、芸能発表はしないこととし、作品展示のほか、郷土の歴史を学ぶ講演会と、関連事業として男性の料理教室団体による事業を実施予定である。

(神田委員)

- ・団体としては発表することを励みにしていることから、形を変えても実施することはありがたいことと思う。

(梅津委員)

- ・「児童期家庭教育学級」について募集人員は何人か。コロナ禍であり、各回7名の参加と少なかったと思うが、内容が素晴らしいのでたくさんの人に聞いていただきたい。2回連続の講座か、もしくは単発の開催のものか。

学校と共催したりすることで、参加者数につなげられないものか。

学習参観日などでもできないものか。工夫しながらやる時期に来ているのではないかと思う。

(岩本館長)

- ・12人募集したが、少なかったという状況である。2回の講座ではあるが、都合が悪いという方には、どちらに出てもよいことで対応した。

(石黒委員)

- ・豊栄地区も北地区もB評価がほとんどである。Bは現行どおりということだが、コロナ禍の中で参加者の人数だけ見ると、がんばったのだなと率直に思っている。

ただ、学校は5類になり、元に戻すかという戻さず、今こそ学校を変えられるいい機会と捉えている。

例えば、中学校だと一番暑い時期に体育祭をやるが、コロナにより半日開催としたのが、また1日開催に戻すかというしない。今や新しい形の体育祭を目指している。

また、木崎地区の区長と語る会で、産婦人科がないという話があり、そうなると思えば里帰りしても近くで出産する場所がない。北区の人たちがゆりかご学級を受

内 容

講するのが主と思うが、そういう状況も昔と今では変わってきているのではないか。

子どもたちが減っており、新潟市全体で100%とすると、15年後には69%に減ると言われている。北区の中学生については、54%に減るとされている。つまり、いま生まれた子どもたちは、15年後には半分に減るということで、ということは、税収入が減る中で、公民館の事業も減らさざるをえないと思う。学校も、建物が40年たち修繕するところが多々あるが、予算の状況によりそれができない。

つまり、学校も学校だけではできないし、困っている住民のニーズも恐らく異なってきたおり、うちの公民館ではこうやっている、ということだけでは、もうだめなのではないかと感じた。

今こそ、学校と公民館が協力したり、地域の方々からどんどん学校に入ってきていただいたり、公民館でこんなことができるよとか、そういう新しいものを目指していかないと、それぞれがうまくいなくなってきたのではないかなと感じた。

私としては、B評価でなくてもいいのではないかと感じており、事業拡大がA評価であれば、もう拡大はできないのではないかと感じる。であれば、形を変えてこういうふうにした、ということをしてA評価にしたとして、次につながる評価になるのではないかと感じるし、待っていてもだめだと思うので、出張公民館ではないが、子どもたちのことを考えると木崎地区は豊栄地区に近いと思うが、小・中学生にとっては自転車でも、公民館まで距離が遠い。逆に木崎まで来てもらって場所を貸してもらい子どもたちに何かを提供する、といった形でもできるのではないか。

また、豊栄地区と北地区で連携できるのであれば、予算の面でもそうだが、保育の面などスタッフのことなど何とかできるのでは、と感じた。

4月に異動し、北区はコミュニティの結束が強く、いろいろなことをしており、まとまりがあって、資源があつていいなと思った。

ただ、お互いに距離があるところをつないでいただければと思う。

ぜひ、前向きに評価をしていただきたい。

(岩本館長)

B評価が悪いということではなく、この事業は継続します、見直しも含むという意味での評価で、させていただいている。

先ほど、梅津委員からも学校のほうに出張してはとの意見があつたが、今年度の「人権啓発事業」については、北地区公民館と松浜中学校が連携し、生徒向けに、SNSに関する内容を組み込んだ内容とした。

保護者の方、また地域の方々へも自治会をとおして参加を募り実施した。

(栗原委員)

今年の会議でも、なぜA評価がないのかという意見が出た。新任委員の方もそう思うことから、意見を受け止めてはいかがか。

(尾崎主任)

・評価の仕方については、全館に共通するところもあると思うため、持ち帰らせていただきたい。

・また、かつては、公民館で地区担当者がいたと聞いているが、コロナ禍により

内 容

見直しをしたとのこと。

早通中のよさこいは、かつて公民館と地域と学校で取り組み、引き継がれていると思う。

今後、学校やコミュニティと連携していく必要があると思うが、今ある既存事業をどう見直していくかということも併せて必要と思う。

(栗原委員)

石黒委員より、連携の取り組み提案があることから、そういった検討をしてはいかがか。

(石黒委員)

評価を変えてくださいではなく、ぜひ自信をもってやっていることをいろいろな新しい取り組みにしていただければ、いい形につながっていくのではないか。

(土田議長)

今の北地区公民館の事業評価のまとめとして、文化祭の代替えについて、今年については、文化祭が開催されるとの共有をしたが、これについて、「団体が一生懸命日々努力しているものを展示や発表する場が必要である。」との意見が出された。

「児童期家庭教育学級」の参加人数について、「少ないことはもったいないことであり、できれば幅広い方々に知っていただきたいし、つなげていっていただきたい。」との意見が出された。

「学校や地域の方との連携を検討してはいかがか。」との意見が出された。

また、「事業評価」について、これまでも疑問があるところであり、一生懸命やっている事業に対しての評価として捉え、「独自の館長の意見としての評価、この事業はこういう風にしていきたい、とか、この事業はこうであったけれどもここに変換したとか、すぐ事業をなくすというのではなく、何か発展できるのではないか、つなげていけるのではないか。」という評価も含めて検討していただきたい。

(3) 「令和 5 年度事業計画について」

ア 「豊栄地区公民館事業計画」

令和 5 年度豊栄地区公民館運営審議会資料に基づき、豊栄地区公民館分について事務局から説明を行いました。

【質疑・意見等】

(梅津委員)

- ・ 7 月 30 日に実施された「平和学習事業」について、何人集まったか。区役所に来た時に庁内アナウンスをしており、熱心に取り組まれているのだなと思った。

(小池主査)

- ・ 68 名の参加があり、昨年度 20 名であったが、大幅に上回った。

イ 「北地区公民館事業計画」

令和 5 年度豊栄地区公民館運営審議会資料に基づき、北地区公民館分について事務局から説明を行いました。

内 容	<p>【質疑・意見等】</p> <p>(梅津委員)</p> <p>・「人権啓発事業」について、松浜中学校で実施したとのことだが、保護者や地域の方はたくさん参加したか。</p> <p>(岩本館長)</p> <p>生徒は全学年参加した。地域に募集をかけたが、一人のみの参加であった。内容については、生徒のアンケートから、SNSについて注意しないといけないという意識をもっていただいたと思う。</p> <p>(玉井委員)</p> <p>長期間の休みなどにおける公民館の利用は、松浜校区の子どもたちの利用が中心か。</p> <p>(岩本館長)</p> <p>北地区公民館では、部屋を確保した中で、小・中学生や社会人の方のからの利用があるが、校区では松浜校区が多い状況である。</p> <p>(玉井委員)</p> <p>児童期・幼児期家庭教育学級で、体を使った遊びの講座ばかりかなという印象がある。体を使った遊びも大事で楽しいが、じっくり遊ぶ機会が減っているような気がしている、遊びも自分が遊びたいと思って、やって発見して、次に発展させる経験が少なくなっているのではないかと思う。</p> <p>体を使ったふれあい遊びもいいが、平素ある積み木などを使った、遊びの大切さも保護者に知ってもらえる機会もあっていいのかなと、参考にさせていただければと思う。</p> <p>(石黒委員)</p> <p>まず、一つ目は、コミュニティスクールについて、葛塚小・中学校は文部科大臣賞を受賞しており、先進的なモデル校となっている。昨年度から始まり、地域と学校の協働活動であり、つまり、子どもたちを育てるのは学校だけではなく、地域の子もたちを地域も学校も育てる、この重要なカギとなるのが地域教育コーディネーターと言われているが、公民館の人たちもいろんな地域の人を知っているの、ぜひ小・中学校にも協力をしてもらおうというよりは、一緒にやっていきたい、という思いがある。</p> <p>豊栄の渡辺館長に、木崎中学校のCS委員をやっていただいているのもそういう関係かと思っている。</p> <p>二つ目は、北区の中学校長を代表してとなるが、報道等で中学校から部活がなくなることは既にご承知のことと思うが、令和8年度から土日に学校では部活しないこととなる。新潟市では、平日に勤務時間終了が午後4時40分まで、終学活終了が午後3時55分までであることから、準備、移動、片付け含めて45分間何もできない。</p> <p>原則部活をやってもいいとのことであるが、実質できないというのが校長先生方の意見である。そうすると、誰が地域の子もたちのスポーツ活動・文化活動を担うのかというと、地域である。</p> <p>6月29日に開催された北区の校長とスポーツ団体、北区産業振興課、ハピスカ豊栄が集まり、スポーツ活動についてどうするかについて、立ち上がりがあった。ただ、今問題なのが、現小学校6年生の子たちが、中学校3年生になった</p>
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

内 容

ときに、学校から部活がなくなる、それで、来春の部活を募集するのかわか、という考えているところである。

文化活動に注目すると、今中学校で一番困っているのが、吹奏楽部についてである。

楽器が運べないことや校舎で活動している現状から、誰が受けるのかとなる。指導者はいるのだろうか。

私たち教員は、転勤があるため、自分たちの住んでいる地元に戻って、地域の子どもを育てるとなったときに、北区に在住の先生方は北区に貢献できるが、うちの学校では北区に住んでいる職員は3人しかいないという、状況もある。公民館の事業では、小学生を対象としているものが多いと思ったが、令和8年度から中学生も4時から何をするか、受け皿がない。美術部をなくしたら、絵を描く機会が授業以外ない、という状況が中学校の中では課題となっており、地域にどんどん発信したり、繋いでもらいながら、北区の中学生の子たちをどうしようかという視点でも事業を考えていただきたい。

(尾崎主任)

中学校の吹奏楽部に所属しているケースで、先生が将来を気にされて北区ジュニア吹奏楽団を受け皿として意識され、楽団への所属アンケートを行った経過があった。

保護者と子どもで相談し、現在は所属せず、できれば別の中学校と連携できないか、という声があった。

このような中で、公共施設の役割は重要と思ったが、市も公共施設再編がある中で、今後も各々互いに状況など共有し合うことは大事と思う。

また、美術に関して、合併前から事業として実施している、「北区展」は、書道、絵画、写真など展示するもの。絵画関係者は、後継者、若い世代に入ってほしいという思いがある。いろんな素晴らしい方が北区にいるが、出会う接点がない。指導者登録というような、民謡ながしの笛、太鼓にしてもこれから必要になってくるのではないかと感じている。

(倉島副議長)

どちらの館も共通かもしれないが、募集をしても人が少ない、集まらない、学校にいて思うが、チラシを配るタイミングが悪いのではないかと。

山のようにある配りものの中で、埋もれてしまったり、開催時期と配付される時期があまりにもかけ離れていると、申し込むことを忘れるか、申し込んでも忘れてしまう。あとでと思ってそのままにしておく方が結構いる。

発信する時期を考えるといいのではないかと。地域回覧も1か月かかる。終わった頃に来るという状況である。

余裕をもって早目の時期から配付するようにしたほうがよい。

広報を、時期とSNS媒体を使用すれば集まるのではないかと。

また、相互にいいものを行っている事業について、豊栄地区、北地区に住む方が交通の便などで行きづらいということもあることから、公民館同士連携し、豊栄でやっているものを北地区でオンラインでするとか、一緒に受講できるようにハイブリッドで行うなど、検討していただきたい。

(尾崎主任)

広報のタイミングは難しいと感じている。

内 容

石黒委員、大原委員にお伺いしたいが、事業の実施に向けて関係者と調整が必要であり、時間がかかる場合もあることから、タイミングが遅れてしまうことがある。

学校の連絡棚も、以前と比べ毎日ではなくなった。

学校の連絡配信アプリはどこまで活用をお願いできるか。紙媒体は難しいと感じているところである。

自治会も学校も紙が多く困っていると思う。

(石黒委員)

今紙代が高くなっており、いろんなところからデータが来ており、印刷して配ってほしいという状況である。

事務担当の方は、デジタル化を進めている。

「あんしんメール」は、学校によって使い方が異なる面もある。よくメールを使う学校があるが、多過ぎると開かないというケースがあったり、重要かどうかわからなくなってくる。自分としては、防犯の面から始まったメールであることから、緊急、非常の時に配信するものと捉えている。

また、学校にデータが来た時に、誰がそれを処理するかというと、学校で一番多忙な教頭先生である。

担当の先生は、印刷がなくなるとか負担軽減にはなる。

子どもたちは iPad があるため、例えば別の職員が担当するケース、図書館司書からのメールは配信することがある。どこまで受け入れるか。

学校の職員数にもより、先生方が少ない中で、多い学校と同じようなことをするのは難しい。メール配信の検討はありと思うが、各学校事情があると思う。

(栗原委員)

重要なものだけでなく、連絡案内するものまで大変ではないか。

(尾崎主任)

もう一つ、例えば自治会の情報共有のデジタル化という課題もある。

(栗原委員)

自治会の委員の年代も千差万別であり、高齢者にラインを送りましたといっても難しい。グループラインをやっているところもあるし、紙がよいという人もいる。

(渡辺委員)

本日は、大変勉強させていただいている。大学では、学生に図書館学習支援センター運営委員として、図書館主催のセミナーを開いている。学校の授業ではないが、統計であればどの学科の学生も共通して学習するため、セミナーで取り扱っている。

実はものすごく学生を集めるのは難しい。教員のほうは、統計であれば、「T検定は統計学の世界ではあたり前で、「T検定を学ぼう」とセミナーのタイトルをつけたが、1年生は「T検定そのものがわからない」ため、題名をもう少し見直して、わかり易くしたほうがいいのではないかとつい先日話し合った。

提案となるが、「乳児期家庭教育学級」の参加者が少ないということで、内容をみると、第3回「今親としてⅠ、今親としてⅡ」とあるが、もしかすると若い方からすると、このような抽象的な表現に、「ここに行って何をするのかかわからない」と感じるのではないかと。

内 容	<p>SNS に流れてくる記事はものすごく具体的であり、若い方には抽象化する力がまだ難しいと感じる部分もあって、具体的にわかって興味を持ってもらえるような題名のつけ方の工夫も大事ではないか。</p> <p>また、全体的な地区公民館のあり方を皆さんがこの場で検討されたのだと思う。今世の中が、小さいときに公民館に期待していたイメージと地域社会が変わってきているので、事業の選択と集中、資本主義的な言葉の使い方で適切かどうかわからないが、行政も事業を見直していかなければならないことははっきりしている。このため、北区という文化的な活動を長く続けてきた地域柄を生かして、中学校の部活動の地域移行期間中をチャンスと捉えて、公民館が地域の人的資源とニーズのある学校や必要としている人をつなぐプラットフォームのような役割、連携の中心となるような役割を担っていただくことが新たな役割としてできないか、と感じた。</p> <p>そうすると事業の評価の指標も拡大というのは、自分で企画した事業を参加者が増えたかどうかで評価する1軸評価ではなく、仕組みが変わる、システムを変えたということで、別の軸の評価とする。公民館がどの役割を果たすかというところが、評価と直結してくるため、全体での整合性を考えると難しいかもしれないが、事業のあり方と評価を一体的に考えていく必要があると思う。フリーアクセスの良さとか、予約制ではあるがドロップイン型の利用ではなく、もともとそこにニーズのある人たち、例えば中学生ならば中学生にどうやって公民館の機能を使って継続的な活動を提供できるか、についてみんなと考えていけたらよいのでは、と思う。</p> <p>(土田議長)</p> <p>本日、たくさんの意見をいただいた。</p> <p>公民館として、学校として、私たちが住んでいる地域住民として、今考えなければならない時期に来ていると感じた。</p> <p>できたら連携をしていただきたい。でもそれは館長同士プラス先生方からもご意見をいただいて連携するべきだ、というようなことを出していないと、子どもたちがこれから困るのではないか。子どもたちが大きくなり地域の人になった時点でどのような社会になっていくかを考えると、私たちも力を入れないとその時点で終わる講座だけでなくお母さんに少し考えていただく、子どもだけでなくこれからつながるよという一言や、何か常に問題提起などが考えさせられるようなものがあればいいなと、聞いている皆さんもいろいろお感じになったと思う。</p> <p>6 その他 (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の内容は、会議概要としてまとめさせていただき、みなさまより後日確認をお願いしたい。 ・ 次回の審議会は、12月頃を予定としており、9月頃日程調整をさせていただきたい。 <p>7 閉会</p>
傍 聴 者	0人

会議資料 等	第9期第1回 豊栄地区公民館運営審議会 次第 新潟市公民館事業の基本方針（令和2～6年度） 令和5年度 豊栄地区公民館運営審議会資料 別冊参考資料（豊栄地区公民館と北地区公民館分） <当日机上配付> 北地区公民館活動写真資料、 新潟市組織機構図（教育委員会部局・社会教育関係）
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------